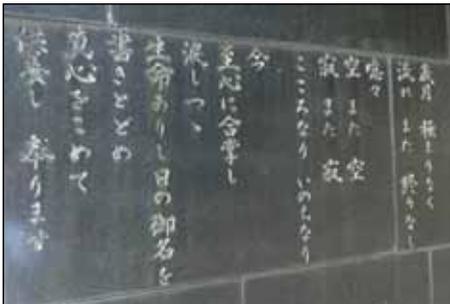
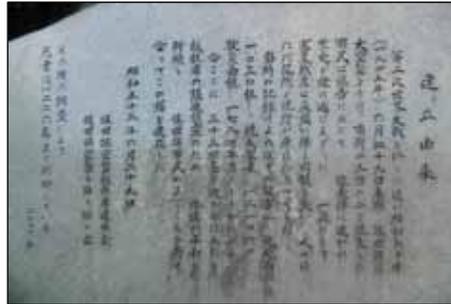


1 鎮魂慰霊平和祈願の塔



基本情報

所 在：中央公園
住 所：長崎県佐世保市宮地町136-7
(JR佐世保駅より 佐世保市営バス「松浦町中央公園入り口」下車 徒歩3分)
建 立 者：佐世保市民
建 立 年：昭和52年6月29日
連 絡 先：不明

碑 文

【左側面】

鎮魂慰霊平和祈願の塔

佐世保市民 これを建つ
昭和五十二年六月二十九日

【左側面】

過ぎ去った 三十余年の重い歳月 人柱となった あなたがたの 数知れない 命が 限りない安らぎに充たされる日 それは 尊い 命の土壌の上に みんなが生きていることが うれしくなる そんな 争いのない 美しい平和の花を 咲かせたときである	歳月 極まりなく 流れ また 終わりなし 噫々 空 また 空 寂 また 寂 こころなり いのちなり 今 至心に合掌し 涙しつゝ 生命ありし日の御名を 書きとどめ 真心をこめて 供養し 奉ります
--	--

説 明 文

建立由来

第二次世界大戦も終わりに近い昭和二十年(一九四五年)六月二十九日未明 佐世保は大空襲をうけ 市街の三分の二を焼失した市民は爆音におびえ 焼夷弾に追われ 業火と煙に逃げまどった 一夜にして 家屋財産は灰燼に帰し肉親を失い 人々はただ茫然と焼野が原にたちつくした 当時の記録によればその被害は 焼死者一、〇三〇柱 焼失家屋 一二、一〇六戸 被災面積 一七八万平方メートルにおよぶ

今ここに 三十三回忌を迎えるにあたり 犠牲者の鎮魂慰霊のため 永遠の平和を祈願し 佐世保市民のまごころを寄せ合ってこの塔を建立した
昭和五十二年六月二十九日
佐世保空襲犠牲者遺族会
佐世保空襲を語り継ぐ会

その後の調査により 死者は一二二六名まで判明している
二〇〇六年

2 佐世保空襲死没者追悼式



※写真提供 佐世保市

開催概要 (平成25年度)

歳事名：佐世保空襲死没者追悼式
 会場：佐世保市民会館
 住所：長崎県佐世保市花園町10-19
 (JR佐世保駅より 佐世保市営バス「市民会館前」下車 徒歩1分)
 日時：平成25年6月29日(土) ※例年6月29日開催
 参列者数：150人
 連絡先：佐世保市 市民生活部 市民生活課 0956-24-1111 (代表)

式次第 (平成25年度)

1. 黙とう
2. 開式
3. 主催者追悼のことば…佐世保市長
4. 来賓追悼のことば…佐世保市議会議長
5. 遺族代表追悼のことば…遺族代表
6. 献花
7. 児童千羽鶴献呈…小学校児童代表
8. 生徒作文発表…中学校生徒代表
9. 遺族代表あいさつ…佐世保空襲犠牲者遺族会会長
10. 閉会

追悼のことば (平成25年度)

暑い夏の訪れを前にして、本日、平成二十五年度 佐世保空襲死没者追悼式を執り行うにあたり、過ぎし日の惨禍に想いを致しながら、謹んで主催者として追悼のことばを捧げます。昭和二十年のこの日、間近に迫った終戦を知る由もなく、爆撃機の襲来に逃げ惑いながら、尊い命を落とされた千二百二十九名の御霊のご無念を思いますとき、また、最愛のご家族を失ったご遺族の皆さまのご心情を考えますとき、尽きることのない哀悼の念を禁じ得ないのでございます。

あの忌まわしい空襲から今年で六十八年の歳月が流れました。私どもは昭和二十年をひとつの区切りとし、焼け野原となったあの日から平和国家建設への一歩を歩み始めました。そして、国民一人ひとりの努力により、奇跡的な復興を遂げ、今では経済的な繁栄とともに国民誰もが平和を享受できる社会を築きあげて参りました。

私たちのふるさと佐世保市もまた、復興を願う多くの市民の皆さまの力強い思いとご協力により、県北の拠点都市として、産業に観光にと発展を続けております。特に本年は、第6次佐世保市総合計画の後期基本計画がスタートいたしました。市民が中心のまちづくりをより一層進めていくと同時に、この平和で幸せな時代が永遠に続き、市民誰もが誇りを持つことのできるふるさとづくりを目指して、邁進して参る所存でございます。

しかしながら、今日の私たちの生活を顧みますとき、決して忘れてはならないことがございます。それは、空襲犠牲者の方々をはじめ、戦争により亡くなられた多くの方々、そして戦後の苦難に満ちた時代を必死になって生き抜いてこられた、ご遺族の方々の存在が、今日の平和で安定した社会の礎になっているというところでございます。

私たちは、御霊のご遺徳をお偲びするとともに、戦争という悲しみの歴史を再び繰り返さないという固い決意をここに新たにいたします。そして、この平和で幸せな時代を未来へ継承し、市民誰もが元気で誇りを持つことのできるふるさとづくりを目指して、全力を尽くすことをお誓いいたします。

終わりに、御霊の安らかならんことをお祈りし、ご遺族、ご参列の皆様方とともに、衷心より哀悼の意を表し、平成二十五年度佐世保空襲死没者追悼式にあたりましての、追悼の言葉といたします。

平成25年6月29日
 佐世保市長 朝長 則男

3 島原市戦没者追悼式



※写真提供 島原市

開催概要 (平成25年度)

歳事名：島原市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：島原文化会館
 住所：長崎県島原市城内1-1177-2
 (島原鉄道 島原駅 徒歩7分)
 日時：平成25年10月4日(金) ※例年10月上旬開催
 参加者数：320人
 連絡先：島原市戦没者慰霊奉賛会事務局(島原市福祉保健部内) 0957-62-8025

式次第 (平成25年度)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 開式の辞 | 7. 来賓者追悼の辞 |
| 2. 国歌斉唱 | 8. 追悼電報披露 |
| 3. 主催者追悼の辞 | 9. 来賓・奉賛会役員献花 |
| 4. 鎮魂曲演奏 | 10. 献詠 |
| 5. 遺族代表 献花・献水 | 11. 遺族謝辞 |
| 6. 黙祷 | 12. 閉式の辞 |

追悼の辞 (平成25年度)

本日、多数のご遺族、ご来賓のご列席を賜り、島原市戦没者追悼式を挙げるにあたり、戦没者各位の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

先の大戦から、六十有余年の歳月が過ぎ去りました。

顧みますと、ご英霊の皆様方は、し烈を極めたあの大戦において、純粋な祖国愛に燃え、愛しい家族の無事を念じつつ戦場に散り、戦火に倒れ、或いは、戦後、帰国を待ち望みながら、遠い異郷の地で亡くられました。

尊い命は永遠に還ることはなく、今、改めて、過ぎし大戦の苦難に満ちた往時を偲び、戦没された皆様方に思いをはせ、残されたご遺族の深い悲しみを思いますとき、悲痛な思いが迫ってまいります。

ここに、心からご冥福をお祈りいたします。

また、戦後、混迷する社会の中、残されたご遺族の皆様方が歩んでこられた道のりは、長く苦しい年月であり、あらゆる苦難に耐えながら懸命に働き、家業に精励し、お子様を育てられました。そのご努力に対し、心から敬意を表するものでございます。

ご英霊皆様方が築られた我が国は、焦土の中から立ち上がり、世界有数の平和国家として、繁栄を遂げて参りました。

今日の平和と繁栄は、皆様方の尊い礎の上に築かれたものであることを、決して忘れることはできません。

しかし、この地球上では、今なお相次ぐ紛争や核の脅威が、世界の人々の平和を揺るがしております。

戦争を知らない世代が社会の中心となり、あの悲惨な戦争体験が人々の心から遠くなっていく今日、過去を振り返り、幾多の尊い犠牲がありましたことを語り継ぎ、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう恒久平和を確立することが、私どもの役目であり、犠牲となられた皆様方の御霊を鎮めることと確信しているところであります。

私どもは、心新たに、全市民の幸せを願い、あなた方が残された尊いご教訓をもとに、祖国の平和と我が郷土島原市のお一層の繁栄に向けて、邁進してまいりますことを、堅くお誓い申し上げます。

ここに、戦没者各位のご冥福を心からお祈り申し上げ、在天の光となって郷土島原市の発展にご加護賜らんことを念じますとともに、ご遺族皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、追悼のことばといたします。

平成25年10月4日
 島原市戦没者慰霊奉賛会
 会長 古川 隆三郎

4 殉国者慰霊塔



基本情報

所 在：温泉熊野神社
 住 所：長崎県島原市杉山町509
 (JR島原駅より 島原鉄道バス「熊野神社前」下車 徒歩2分)
 建 立 者：遺族会等 有志
 建 立 年：昭和39年4月
 連 絡 先：温泉熊野神社 0957-64-6511

※一般戦災死没者を含む

碑 文

【表】

殉国者慰霊塔

【右】

昭和三十九年四月吉日

説 明 文

慰霊塔建設概要

この慰霊塔は元宇土に建てられていた招魂社を復興再建したもので殉国の英霊に対する追慕の念と理解により わが地区民殊に杉谷出身者各位の協力と善意とがこの崇高なる姿となって実現したのである

総工費 七拾万円
 施工者 株式会社長崎土建工業所
 竣 工 昭和三十九年三月
 (個人名)

5 無縁者之墓



基本情報

所在：尾山共同墓地
 住所：長崎県東彼杵郡川棚町白石郷字尾山北平111-2
 (JR川棚駅より 西肥バス「川棚高校前」下車 徒歩5分)
 建立者：川棚町
 建立年：昭和61年3月
 連絡先：東彼杵郡 川棚町 0956-82-3131 (代表)

碑文

【表】

無縁者之墓

【裏】

昭和六十一年三月吉日建之川棚町

経緯

昭和20年7月31日10時過ぎ、米軍飛行機B24型7機の空襲で爆弾約10発が爆発し、付近の多数が重軽傷、69名が死亡した。そのうち、戦時慰問で来町中の朝鮮人劇団員のうち7名が死亡した。後で見付かった同劇団員2名の遺骨は白石郷尾山の共同墓地に埋葬した。その後、長崎原爆死亡者のうち身元不明者11名の遺骨も共同墓地に埋葬した。

その40年後、町による墓地の整備事業で、「無縁者之墓」(納骨堂)が昭和60年12月着工～翌61年3月竣工し、納骨された。

なお、この「無縁者之墓」(納骨堂)には川棚空襲で死亡した身元不明者だけではなく、その他の遺骨も合葬してある。

また、この墓碑(納骨堂)の西隣に「原爆殉難者慰霊碑」が平成3年3月建立された。

出典：喜々津健寿著「川棚歴史散歩」(芸文堂)をもとに構成
 ※一部記述の誤りを訂正